

## 今年も、地獄の釜は熱かった

～ 第39回登別温泉地獄まつり～



観光客の人気を集めた『閻魔大王からくり山車』

## 捕れたてサケの抽選に 大きな歓声

～ 第25回登別漁港まつり～

9月14日(土)、15日(日)の2日間、登別漁港を会場に、漁の安全操業と大漁を祈願する『第25回登別漁港まつり』(同実行委員会主催)が開催されました。

色とりどりの大漁旗で飾られた漁船が並ぶ会場では、地元で採れたホッキ貝、毛がに、ツブなどの海産物が格安で販売され、新鮮な海の幸を求める買い物客でにぎわいました。

また、毎年人気を集める、捕れたてのサケを格安で販売するコーナーでは、雄・雌の抽選が行われるたびに会場からは大きな歓声が上がっていました。

このほか、露店、青空市、ステージでのバンド演奏、夜には花火大会などの催しが2日間にわたり盛大に繰り広げられました。



8月23日(金)から25日(日)までの3日間、登別の夏まつりの終幕を飾る『第39回登別温泉地獄まつり』(市・登別観光協会主催)が行われ、登別温泉街は祭り一色に彩られました。

祭りは登別温泉小学校・オニッコマーチングバンドのリズミカルな演奏でスタート。100人を超える若衆が約1トンの赤鬼のみこしを担ぎ、威勢良く練り歩く『鬼みこし暴れねりこみ』、観光客と市民が一緒になって華やかに舞う『鬼踊り大群舞』と続き、最高潮に達しました。ハイライトを飾ったのは、『閻魔大王からくり山車』。高さ約6メートルの巨大な閻魔大王が地獄の審判を下すと、極楽通りを埋めた観光客から歓声が上がっていました。

また、今年は、『女みこし』が3年ぶりに復活したほか、演歌歌手・長山洋子さんが、今秋放映される登別温泉を舞台にしたテレビドラマ『はるちゃん6』の主題歌を披露するなど、祭りに華を添えました。



3年ぶりに復活した『女みこし』

## 交流の輪を広げ、 健康の大切さを実感

～ ふれあい広場2002・  
第15回市民健康まつり～

9月1日(日)、しんた21で、『ふれあい広場2002のぼりべつ』(社会福祉協議会主催)と『第15回のぼりべつ市民健康まつり』(市主催)が同時に開催されました。



点字体験をする子どもたち

ふれあい広場には、延べ720人の方が参加。車椅子・点字・手話などのボランティア体験コーナーや『ふくしにまつわるふれあいウルトラクイズ』、障害者作品展覧会など、障害をもつ方もたない方がいろいろな催しを楽しみ、交流の輪を広げていました。

また、市民健康まつりでは、約6千メートルを歩いてさわやかな汗を流す健康ウォークをはじめ、測定コーナーや健康・栄養相談コーナーなどで普段できない自分自身の健康をチェックするなど、参加した約350人の市民は、健康の大切さを実感していました。